

# 伊那谷のでき方を探る 下久堅虎岩以北～喬木村地域

地質委員会 山本小学校 田中寛人

## 1 はじめに

私の自宅は、飯田市川路にあります。日頃から赤石山脈や伊那山地を眺めて生活しています。「どうやって、このあたりの山々や段丘はできたのかなあ」と思いをめぐらせていました。そんな折に、地質委員会の仲間に入れていただきました。今回は、同じ委員会の委員である熊谷(2006)「下久堅地域の段丘が断層によって形成されている」の報告から、その以北にある喬木村の段丘へのつながりはどのようになっているのか興味を持ち、調査を行ってきました。

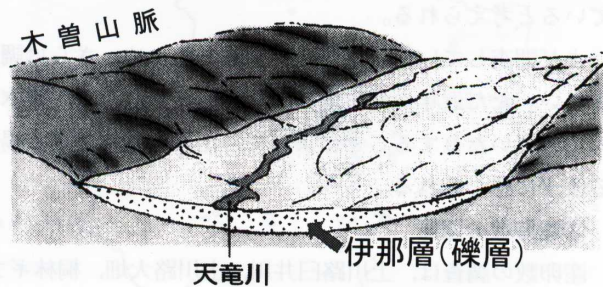


図1 伊那層の堆積

## 2 伊那谷はどのようにつくられてきたのか

伊那谷はどのようにできてきたのでしょうか。伊那谷は昔、平坦でした。今から約200万年前頃から、赤石山脈や八ヶ岳方面から、天竜川や小渋川など河川の働きによって運ばれてきた礫が大量に運び込まれ、ほぼ水平に堆積し、広い平原を作りました。(図1) この時に堆積した礫層を「伊那層」と呼んでいます。この礫層は、天竜川によって塩嶺方面から運ばれた安山岩礫を含むのが特徴的で、支流から運ばれた花崗岩やチャートの礫も含まれています。草かきで簡単に削れる地層です。伊那層は下伊那に広く分布し、厚さは場所によって50mを超えます。喬木村小川川の南側で見られるがけでは、川底から段丘の上まで全て礫層になっており、遠目からでも確認することができます。喬木村の九十九谷にも、伊那層のがけが至るところで見られます。伊那層が堆積したあと、赤石山脈や木曾山脈が造山運動によって隆起を始めます。(図2) この動きによって、木曾山脈と赤石山脈に挟まれて伊那谷が形成されてきました。

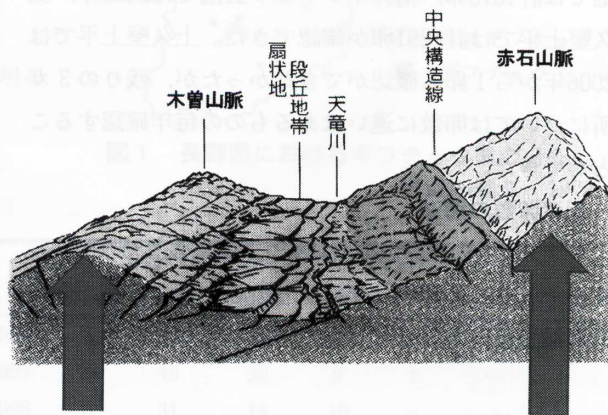


図2 赤石山脈・木曾山脈の造山運動

天竜川流域につくられている段丘は、昔、川の浸食によってつくられた河岸段丘と考えられていました。しかし、最近の研究で、断層によってつくられた段丘も多いことが分かってきました。特に天竜川の西側では多くの断層が確認されています。(図3) さらに、天竜川東側でも、段丘が断層によってつくられているところがあると熊谷(2006)で発表されました。

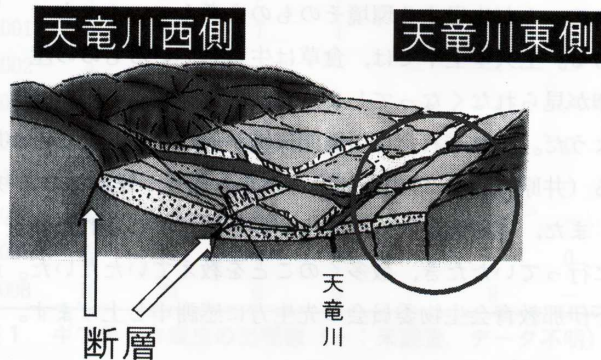


図3 断層段丘の形成

## 3 飯田市下久堅地域の段丘の形成について、熊谷(2006)より

### (1) 基盤岩と伊那層の分布から分かること

これは、下久堅虎岩で見られる露頭(図4)です。基盤岩と呼ばれる伊那谷の底をつくっている岩盤は花崗岩です。花崗岩は非常に硬い岩石ですが、場所によっては風化や圧縮などの様々な要因により、変色したり砂質のようになっているところも見られます。その上に伊那層が堆積しています。この写真からも、当時は、ほぼ水平な地形をつくらっていた花崗岩の上に、伊那層が堆積したことが分かります。それにもかかわらず、現在の下



図4 下久堅虎岩の露頭

